

## ホームリンガー商会

ホーム・リンガー商会 (Holme, Ringer & Co., Ltd.) は、明治時代 (1868 年～1912 年) の長崎居留地における傑出した英国商社であった。会社は 1868 年、リッジ生まれの企業家フレデリック・リンガー (1838-1907) によって設立された。当時、特定の指定港以外で外国名を名乗って貿易を行うことはまだ違法であったため、リンガーは元神戸税関の瓜生肇 (1842-1913) と共に設立した瓜生商会の子会社として門司と下関で事業を行った。瓜生商会は関門海峡における英国権益の事実上の代理店となり、やがて 2 つの大財閥の石炭輸出を手がけるようになった。三井と三菱である。

リンガー社は、海運、商品取引、保険、トロール漁、ノルウェー式捕鯨、ホテル経営などの事業も展開していた。また、水道、電気通信、大型灯油貯蔵タンクなど、西洋の最新技術も導入した。

1907 年、フレデリック・リンガーは英国への帰省中に亡くなり、その後、次男のシドニー (1891-1967) が会社を引き継いだ。ホーム・リンガー商会は、第二次世界大戦が勃発した 1940 年 10 月に閉鎖を余儀なくされるまで、一族の手で存続した。

1952 年、シドニーは戦時中に接収された社屋を点検するために下関に戻った。瓜生商会の元従業員たちが彼に会い、会社復活の許可を求めると、彼は快く承諾した。ホーム・リンガー商会は同年門司で再開した。現在も海運代理店、港湾代理店として営業を続けており、海峡に面した大きな「Holme Ringer」の看板が目印の、質素だが特徴的なピンク色の建物で営業している。